

希望の作物、イシクラゲ

栄東中学校 2年 西殿 大洋

私は小学生の頃から飢餓問題について興味があり、小学校を代表してユニセフへの募金を集めていた。

そんな私は、ユニセフがその募金を使って飢餓問題に対してどのような活動をしているのか調べてみた。そこで私は「おや?」と思った。なぜなら、ユニセフの活動に変化が無かったからだ。実際にユニセフは飢餓問題に対して実績を残しているが、とはいえ飢餓問題が少しでも解決に向かう様子もない。ユニセフの活動はほとんどが寄付のままである。つまり、長年にわたって飢餓の人々は寄付に頼りきりになってしまっているのだろう。

そこで、根本的に飢餓問題を解決するにはどうしたら良いか。その答えは、現地でも十分に栄養を供給できるようにすることだ。そのための近道は栄養満点の作物を現地で生産できるようにすることだが、近年話題になったミドリムシも現地で栽培するのは難しいと言える。

では、果たして栄養満点で現地での生産も簡単にできる、そんな万能な作物など存在するのか。しかし、調べてみて私はイシクラゲの存在を知った。イシクラゲは駐車場や河川敷にも生息しているバクテリアであり、意外に身近な生物であるが、炭水化物やタンパク質を多く含み、その他のミネラルも多く含有している。しかも、乾燥状態のイシクラゲは同じ重さのぶどうと比べて30倍以上の鉄分を含有しているという驚異的なステータスを誇る。さらに、イシクラゲは水と光と

二酸化炭素さえあれば成長し、それらが無くても乾燥状態で過酷な状況を百年程生き延びることができる。つまり、イシクラゲは栄養満点で現地でも簡単に栽培できて、しかも保存も利くという三拍子そろった、私が求めていた作物であったのだ。

私は、イシクラゲが飢餓問題に対して重要な切り札であることを知った今、世界中にイシクラゲの存在を発信し、飢餓問題を少しでも解決に近づけることが私の使命だと感じた。しかし、イシクラゲの存在を広めるにあたって、個人あるいは団体単位で「汚い」「見た目が気持ち悪い」などと非難されてしまうかもしれない。その他にもイシクラゲが飢餓問題の解決への重要な切り札であることを世界に発信するにあたってはたくさんの大きな壁が立ちはだかることだろう。さらに、現地でイシクラゲを栽培するとなると巨額の資金も必要だ。

しかし、それらを乗り越えることが私の使命なのだ。もしも私が諦めてしまったならば飢餓問題が解決に向かうことはますます困難になるだろう。そのためにはSNSで、コンテストで、イシクラゲについて発信し、少しでも多くの人々の理解を深めていくことが必要になってくる。そして、現地でのイシクラゲ栽培を実現させ、飢餓問題を解決することが私のゴールだ。